

越山若水

2021.4.3

あすは二十四節気の「清明」。

「清浄明潔」を縮めた言葉で、空気が澄んで陽光は明るく万物を照らし、全てが鮮やかに見える頃。

草木も芽吹き、春を謳歌する季節

を表している▼人もまた陽光に誘われ、野や山にと出かけ活動的になる。そのせいか夜もぐっすり眠り、ついつい寝過ごしてしまう。

俳句の季語でおなじみの「朝寝」「春眠」である。実例としてよく紹介されるのが有名なこの一句。「朝寝せり孟浩然を始祖として

水原秋桜子」▼大方の人は孟浩然をご存じだろつ。中国唐代の詩人で、次の漢詩の作者。

「春眠暁を覚えず／処々啼鳥を聞く／夜来風雨の声／花落つること知る多少」。そこで

秋桜子の言い訳。寝坊をしてしまった。でもいいか。何せ朝寝の始祖、孟浩然が詩に詠んだのだから…▼五言絶句の「春暁」のテーマ

は朝の目覚めだが、「春眠」は時として、昼どぎや電車の中で見かけるうたた寝をも意味する。要は春の睡魔全般である。「春眠のあ

あばかばか」という副詞「池田澄子」。温暖な日差しを浴び、うつらうつらと舟をこぐ光景

が目に見えぬ▼寒さも和らぎ過ぎやすい時

候「清明」を迎える。ただ折しも新年度スタートの時期。慣れない環境で仕事に、学業に

と気苦労が多く、とても「春眠」をむさぼる

状況じゃない。でもせめて休日ぐっすり心置きなく眠りたい。新生活の英気を養うために。